



地域を元気に!!

わがまちの
**活力
アップ**

150号
特別企画



ZOZO マリンスタジアム



Marines

プロ野球 千葉ロッテマリーンズの 社会貢献・地域振興活動

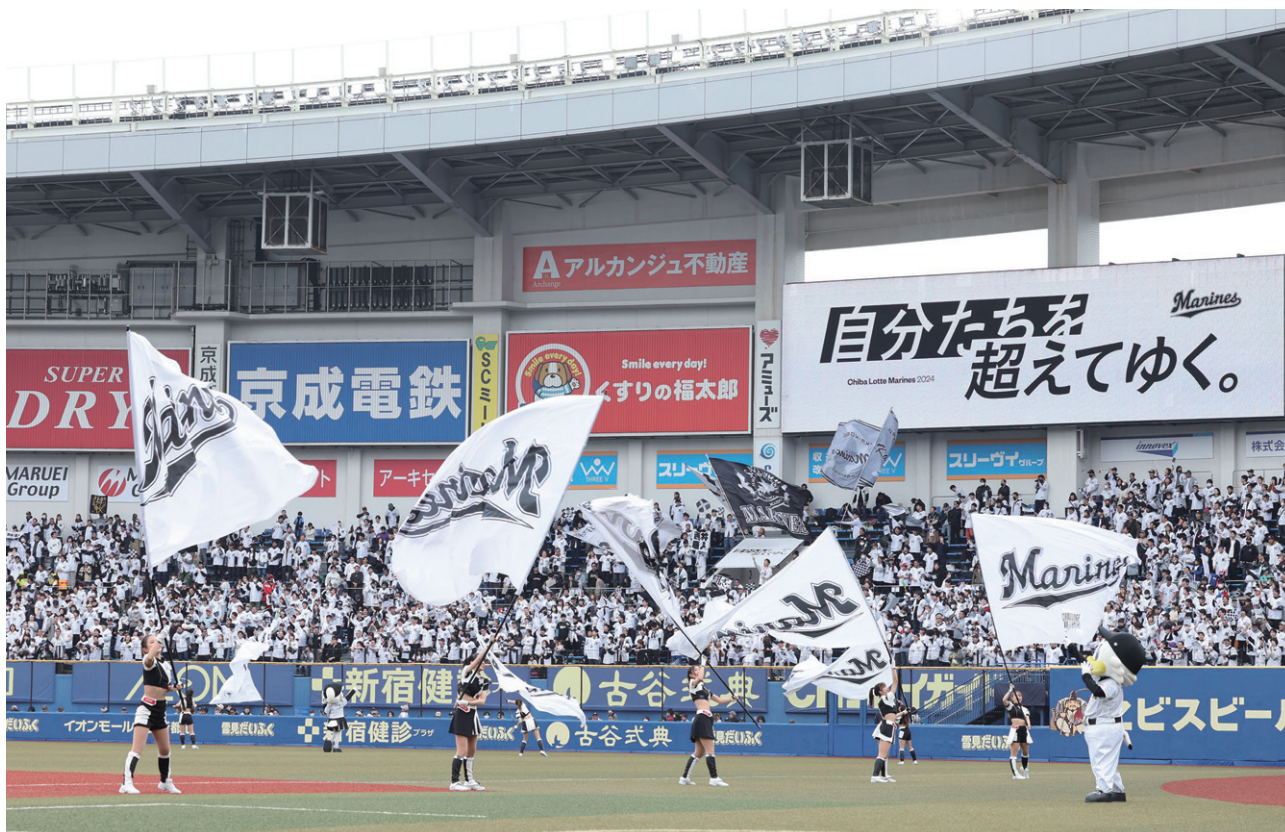
—12市と結んだ
フレンドシップ
シティ協定

選手が中心となって活動する
MARINES LINKS

ほか

千葉県
千葉市

日本で人気のあるプロスポーツはダントツ1位で野球——5割以上の人が「好きなプロスポーツ」として挙げている（2023年、中央調査社調べ）。プロ野球の1位は1996年から四半世紀以上変わらない。これはプロスポーツとしての歴史が古いだけにうなずけるが、各球団の社会貢献・地域貢献活動も大いに寄与している。市町村アカデミー近隣に本拠を置く千葉ロッテマリーンズも、県内でさまざまな活動を行っている。



千葉ロッテマリーンズの行う 社会貢献・地域連携とは

千葉ロッテマリーンズ（以下、マリーンズ）のWebサイトを見ると、球団の社会貢献・地域連携については、「地域振興」として以下のような考え方を示している。

「千葉ロッテマリーンズは『地域提携の強化』をビジョンに掲げ、地域コミュニティと共に成長し、地域経済にも貢献する活動をおこないます。」

その活動の一つとして「フレンドシップシティ協定」や「MARINES LINKS (マリーンズ・リンクス)」などがある。

まず「フレンドシップシティ協定」から見てみよう。マリーンズは、千葉県内の12の自治体と「スポーツを通じた地域振興・地域貢献に関するフレンドシップシティ・プログラム協定」を締結している。球団の本拠地のある千葉市をはじめとして、二軍の試合（イースタン・リーグ）を開催する各市などと連携し、青少年の健全な育成、市民の健康増進・豊かな社会生活を実現することを目的に、さまざまな



2023 年茂原市テント（2023 年 6 月 23 日 ALL FOR CHIBA FES）

活動に取り組んでいる。

こうした活動を始めたそもそものきっかけというのは、どのようなものだったのだろうか。球団の振興部担当者にお話をうかがった。

「フレンドシップシティ・プログラム協定は、2017 年 1 月 25 日に県内 10 市と締結してスタートしました。球団のホームタウンである千葉市、秋季キャンプを行っていた鴨川市、県内でイースタン・リーグの試合を行った市原市、浦安市、柏市、袖ケ浦市、習志野市、成田市、船橋市、茂原市の 10 市です。」

当時、県内の自治体との連携をスムーズに、また一律化して行うため、マリーンズから協定締結の働



2023 ALL FOR CHIBA グッズ ハンドタオル



フレンドシップシティグッズ 成田市タオル

きかけを行いました。

何かできないだろうかと知恵を出し合い、ホームタウンであったり、キャンプ地、イースタン・リーグを行っている自治体さんとの連携というところに行き着いたのです。

ゼロからの関係性ではなく、元々あった関係を構築し、協定の締結により、形をつくり上げていったことになります」

フレンドシップシティでは、12の自治体と次のような項目で連携が行われている。

- ◎各市で行われるマリーンズ関連活動に関する連携
- ◎競技普及や運動能力向上を目的に各市で行われる学校訪問活動に関する連携
- ◎マリーンズ主催一軍公式戦における市民優待に関する連携
- ◎その他各市で行われるマリーンズによる地域振興活動に関する連携

また、球団が指定するプロパティ——ロゴなどを無償使用することの許諾も協定のなかで行われる。

連携にあたって 行政と球団の思いを最大化する

いまでこそ、さまざまな活動のなかで連携はとてもスムーズに行われている。各市ごとにニーズも異なるため協定の中で、最大限の地域連携、振興活動が実現するよう試行錯誤したそうだ。

「協定はそれぞれの市と1対1で結んでいるわけですが、足並みを揃えてということが大変でしたね。それぞれの市によって要望する内容も異なりますから。

いったん協定が締結されてからは、とてもスムーズでした」

その後、2018年に佐倉市、市川市とも協定を結んでいる。佐倉市、市川市はともに、イースタン・リーグの試合が行われたり、二軍の練習場があったりしたというご縁で協定を結んだものだ。佐倉市の長嶋茂雄記念岩名球場ではイースタン・リーグの試合があり、市川市の国府台球場は前身である毎日オリオンズ、毎日大映オリオンズ、東京オリオンズ時代に二軍の練習場として利用された。こうした背景もあり、協定の締結はスムーズに進んだそうだ。

選手が主体的に活動する MARINES LINKS

マリーンズの社会貢献・地域振興活動のなかでも一つ、選手が主体的に活動して社会貢献するというものがある。前述した「MARINES LINKS」と呼ばれるものだ。独立した活動ではあるが、地域コミュニティの発展や社会課題を解決させることを目的に、選手が中心となって球団やパートナー企業と連携しさまざまな活動に取り組むプロジェクトである。

「MARINES LINKS」というネーミングには、この社会貢献プロジェクトを通じ、選手を中心にマリーンズに関係する人々全員を「LINK（リンク、つなげるという意味）」させたいという思いが込められているという。

マリーンズではこれまでも、千葉県内を中心に算数ドリルなどを寄贈するなどの訪問活動や、県内でイースタン・リーグの試合開催時には地元住民と交流したり、選手による社会貢献活動など、さまざまな

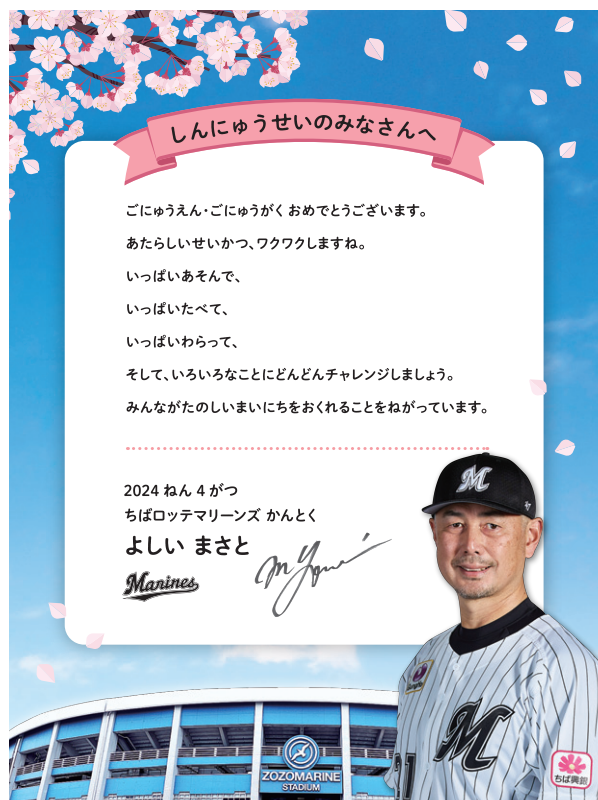
活動を行ってきた。MARINES LINKSはそれに加え、選手による活動領域をさらに拡大し、球団がサポートしている野球やスポーツの楽しさを伝える機会としてさまざまなイベントの実施や、マリーンズが関わる地域との交流活動、企業とともに社会貢献活動に取り組んでいくなど、より積極的な活動を行っていくという。

選手が直接参加するものでは、新入学シーズンの4月に行われる新1年生へのランドセルカバーの無償配布がある。千葉市内の小学校35校の新1年生約2,000名を対象に行われるもので、今年は上田希由翔選手が球団マスコット「ズーちゃん」と市内の小学校を訪問して贈呈するというを行っている。

また、「パラ支援プロジェクト」という活動があ



上田選手が小学校を訪問し、ランドセルカバーを無償配布



吉井監督の入学お祝いメッセージ 毎年、千葉県内の小中学校全校にお祝いのメッセージをお届けし、入学式で祝電と一緒に披露していただいている

る。これは、千葉県内の特別支援学校を訪問するか、ZOZOマリンスタージアムへ子どもたちを招待し、野球やダンスを通じて体を動かす楽しみや喜び、スポーツの素晴らしさを体験してもらおうという活動だ。2023年4月から取り組んでいる活動で、2025年までの3年間で県内37校の特別支援学校で実施されるという。このプロジェクトは、民間企業をパートナーとして、ともに実施するものである。

同じく選手の活動を、球団とともにパートナー企業がサポートするプロジェクトとして「TEAM MATES事業」がある。これは長期治療を必要とする子どもの自立支援とコミュニティの創出を支援する事業だ。子どもが球団に入団し、シーズン中、スタジアムなどでチームの一員として活動するという内容である。

マリーンズの取り組む さまざまな社会貢献・地域振興事業

マリーンズは、フレンドシップシティ協定やMARINES LINKS以外にもさまざまな社会貢献・地域振興事業を行っている。次に、そのいくつかをまとめておこう。



パラ支援プロジェクト

●ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト

千葉県と連携して実施する取り組み。地元千葉県の小学生、中学生、高校生を対象としたもので、ZOZOマリンスタジアムにおいてキャリア体験プログラムを提供することで、スポーツの価値や魅力に触れてもらう。「みるスポーツ、ささえるスポーツ」への関心を高めることが目的だ。

●マリーンズ・ダンスチャレンジ

マリーンズ・ダンスアカデミーのインストラクターが訪問して行うダンス教室。千葉県内の幼稚園・認定こども園・保育園（所）を対象に2015年度から実施している。ダンスを通じて千葉県の子どもたちに笑顔と元気を与えるとともに、健やかな成長を促すプログラムを提供する。体を動かすことの楽しさを伝え、子どもたちへのスポーツ振興を目的として実施するもの。

●ベースボールチャレンジ

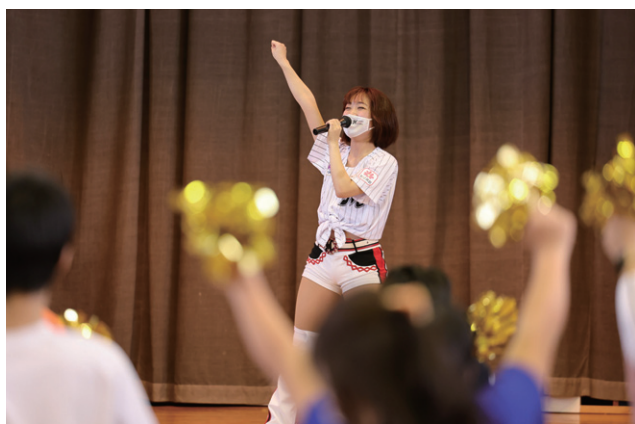
千葉県の子どもたちの体力・運動能力の向上を目的に、小学生を対象にしたスポーツ教育の一環として千葉県及び県内各市町村教育委員会と連携して実施。マリーンズ・ベースボールアカデミーのコーチ陣による、スポーツ学習の基礎となる体験授業が行われる。2015年より千葉県内小学校で実施。

●千葉県中学硬式野球大会

(CHIBA LOTTE MARINES CUP)

千葉県内硬式野球クラブの交流と青少年の健全育成、並びに野球の普及発展に寄与することを目的に開催。

* * *



マリーンズ・ダンスチャレンジ

多くのプロスポーツで社会貢献・地域振興活動を行っている。とりわけ歴史の長いプロ野球球団は人気スポーツだけに受け入れられやすく、さまざまな形で地域社会に浸透しているといえよう。

マリーンズの球団理念に掲げる「VISION 2025」は次のようなフレーズから成り立っている。

新たなスポーツエンターテインメントの創造

——時代に適応した、
新たなスポーツエンターテインメントを
創造、提供する。

チームブランドの強化

——目の前のクオリティを突き詰め、
マリーンズブランドの価値を高める。

地域提携の強化

——地域コミュニティと共に成長し、
地域経済にも貢献する。

これから数年を見据えた球団の目指す方向性を明示しているフレーズに「地域提携の強化」がうたわれているのである。これは、マリーンズが地域社会をいかに重視し、寄り添い、ともに歩んでいこうとする姿勢でいるかをもの語っているといえよう。

とりわけ、子どもたちの健康増進・体力アップを念頭においたさまざまなプロジェクトを見ると、千葉県の子どもたちはますます野球好きになっていくことは間違いのないところである。

マリーンズの本拠地である千葉市に所在する市町村アカデミーとしては、マリーンズと地域とのさまざまな連携活動を見守るとともに、チームの今季の活躍を願ってやまない。



イースタン・リーグ試合後のベースボールチャレンジ